



学校運営協議会だより

第7号

<志岐代表あいさつ>

前月行われました地域協働学校の研究発表は、委員の方々、先生、保護者、地域、そして中心となる子どもたちそれぞれの力が結集して、無事に終了しました。皆様のご協力ありがとうございました。今月2日の日曜日に淀橋市場において毎年恒例の市場祭が開催され、淀四小から和太鼓クラブとブラスバンドが参加しました。参加のきっかけは北新宿四丁目町会盆踊り大会で和太鼓クラブが演奏していたのを、ご覧になった市場の役員の方が「この地域の学校にこんなクラブがあるのか。ならば、是非、市場祭りに参加していただきたい」と要請がありました。「ブラスバンドもあるんですよ」とお話しをして子どもたちと地域の方々の交流が始まりました。10年が経ち、その間に、大江戸ダンスや西戸山ソーランも加わり、より多くの子どもたちと地域の方々の交流が増えました。協働学校が始まって、皆さんのいろいろな提案もありながら、実現できないもどかしさもあるとは思いますが小さな積み重ねが、やがて大きな輪になると思いますので、これからも引き続き皆さんの力をお貸し下してください。

平成26年11月6日(木)

第7回運営協議会 次第

- 1) 志岐代表あいさつ
- 2) 権田学校長あいさつ
- 3) 研究発表会の報告とその後の提案
- 4) 第2回学校評価アンケートについて
- 5) 学校評価結果報告書について
- 6) 数検(12/6)・漢検(1/31)について
- 7) 活動報告
- 8) その他

※次回12月4日(木) 15:30から

2. 《権田学校長あいさつ》

10月29日の研究発表会では、ご尽力をいただきましてありがとうございました。間際になって、運営協議会の皆様には各分科会のお手伝いなど、お願いすることが多く本当に申し訳ありませんでした。快く、ご協力いただきましたこと、本当にありがとうございました。ご参観いただいた区内教員・地域運営協議会委員の皆様からは、これから始まる地域協働学校への良い指針であり、準備校の運営に大いに参考になったというご意見をいただきました。これもひとえに、地域協働学校運営協議会委員の皆様の日頃からのご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。地域協働学校については、これからが本番です。準備校の段階から作り上げてまいりました「学校支援部」「学校評価部」「連携活動」の取り組みをさらに検証しながら、継続できる取り組みの精選と組織づくりに努めてまいりたいと思います。そして、運営協議会を核として、学校・保護者・地域が無理なく連携し、子どもたちを地域の子どものように慈しみ、やがては「地域に貢献できる大人」となってくれることを願って、育ててまいりたいと思います。今後ともご協力宜しくお願い致します。

低学年「あきのおもちゃ だいしゅうごう」

1年生は生活科の授業で、秋のどんぐりを中心にしたおもちゃを作成し、そのおもちゃを使った遊び方を地域の方と協力しながら授業を行いました。

低学年ブロックとしての協議会には原さんに参加していただきました。地域ごとに、地域の連携の在り方、地域の特徴をそれぞれの面で、淀四のやり方が他校の参考になるかというとなかなか難しいという意見がでていました。熱心実践している地域もあれば、どうやってやればいいのかと悩んでいる地域もありました。そこには温度差や地域の特色の違いがでている分科会でした。今後は今月末に秋祭りの本番を予定しています。地域の方や淀四幼稚園とよろい保育園の園児をゲストに呼んで秋祭りを迎える予定です。どこの学校にも人材リストができていない、人脈を集約するスクール・コーディネーター(SCo.)もないという意見がありました。淀四の連携活動の取り組みは参考になったのではないかと思います。

中学年「地域のためにできること」

総合的な学習の時間で「地域のためにできること」を行いました。これは福祉の学習です。4年生は2学期に入ってから障害者の方々・高齢者の方々など様々な人と出会う学習をすすめてきました。自分たちが地域の為にできることは何かと考えて、交流を行うことやつながりを大切にしていきたいという気持ちを育む授業を計画しました。9月の初旬にブラインドサッカー（視覚障害）で交流を行いました。国語の単元の「点字」についての授業も行いました。自分たち以外あたりまえだと思っていたことが、視覚障害の方と交流することで、体験を通じて学ぶことができました。認知症高齢者総合相談センターの和田所長さんに来校してもらい「認知症」についての理解を深める授業も計画しました。9月の下旬に高齢者施設の「かしわ苑」で歌の交流を行った後、和田所長さん、「かしわ苑」の所長さん、職員の方、5名に来校してもらい、「かしわ苑」で自分たちができることを5つのグループにわかれて考えました。歌を歌う、かるたをする、おりがみをする、百人一首をするなど提案をしました。目の不自由な人、手の不自由な人のために改善点があることがわかり、相手の立場になってよりよい学習ができました。

松田恵示先生のワークショップ「地域協働学校は、だれのために役に立つのか」

育ちは出会いです。子どもたちにとって、他人と他者と他己の3種類が社会関係では必要です。隣の人とスキンシップをとるような感じで地域と学校と子どもたちが深まるような関係はどのようなことを考えるワークショップでした。

勝野正章先生のワークショップ「子どもを真ん中にした地域協働学校」

「地域協働学校として大切なこと」「児童の主体性」「理念」についてご講義いただきました。

「地域協働学校として大切なこと」は学校としてどんな児童を育てたいかという共通理解があることです。子どもの成長や発達や学習につながること。子どもは自主的でないと地域に目をむけないので子どもを真ん中にすることが何よりも大事であること。子どもを真ん中にするのがキーワードです。

「児童の主体性」は地域の問題を自分たちの問題としてとらえ、取り組んでいくこと。大切なのはその課題を自分たちで見つけていくことです。そこから解決策を見つけ、自分たちがどのように動いていくか試行錯誤していくことで主体性が育っていくこと。

「理念」、すべての子どもたちの健やかな学びを保障するためには子どもを真ん中にするのが地域協働学校の理念になるということです。

評価部会

（参加者からの意見）

- ・ 淀四小では突っ込んだ項目を立てていますね。
- ・ 昔は、学校に評価されている感じがあったが、今はお互いで評価できる学校評価になっている。
- ・ 課題に気付いて改善できる流れに変わってきている。
- ・ 連動した項目を作っていることも高く評価できる。
- ・ お互いが具体的な改善策がみえるのが素敵。
- ・ 課題のひとつが中学校、養護学校など各区域（地域）にまたがっている所から子どもたちがきていること。学校では地域協働学校をどうすすめたらよいか。できることからやってみることが大事。
- ・ 情報を公開していかないといけない反面中学校では子どもを通して情報の伝達が途絶えてしまう現状がある。
- ・ E評価（わからない）、わからないという回答は、項目自体の意味もわからないととらえられる。
- ・ 今は、良い評価や悪い評価など評価をつけらるようなわかりやすい項目になってきている。

研究発表を無事に終えることができましたのもご参加いただきました、みなさまのおかげです。
本当にありがとうございました。